令和６年度　第５回　FD 研修会報告

日　時：令和６年９月 18 日（水）　14:40　～　15:30
H 棟 207　中講義室教室
出席者　教職員 30 名
発表　新井 浩（美術学科　自己点検・評価質ALO）
テーマ　認証評価で求められる観点と共通認識について

2027年度に予定されている認証評価に向け、円滑かつ充実した報告書作成のため、大まかな作業スケジュールの確認、認証評価の意義、2024年に新たに示された評価観点の共有を行った。記述に関して、これまで細かく指示されていた観点が参考となり、任意の記述に変更された。第4期認証評価では特に「内部質保証」と「学習成果の可視化」に重点が置かれ、詳細な報告が求められている。

また、新旧の観点について細かく記された対応表についても紹介したが、執筆に直接関わらない教員にとっては内容が細かく複雑である。そのため、認証評価を「自分ごと」として捉え、必要性をより強く実感してもらう必要がある。そこで新井が8月末に参加した短大実務協会主催の研修で受講した、教学マネジメントに関する内容を報告した。まず、これまで大学に求められてきた教学マネジメントの導入、地方創生推進事業、教育の質の保障、内部質保証といった流れを整理し、PDCAサイクルが機能する組織づくりの重要性を再確認した。また、検証作業については、教員がそれぞれ自身の授業を見直し、学科全体としての取り組みを検証し、それを短大全体の活動として総合的に検証する、三つのレベルでの検証が必要であることを強調した。

さらに、「大学のブランド化は誰のため？」というテーマに基づく山梨県立大学の取り組みを紹介した。この取り組みは、山梨大学と県立大学を中心に進められている地方創生に資する人材育成プログラムである。地方の人口減少や産業衰退に対応するために、地元の高等教育機関が連携して地域独自のブランディングを推進し、地域社会の持続的発展の中核となることを目指している。そのためにはそれぞれが「開かれた大

学」となることが大切であり、大学改革や各取り組みを通じて地方の人材育成の担い手としての自覚を深めていくことに取り組んでいく必要がある。

　認証評価の過程には多大な労力と手間がかかるものであるが、この機会を意義あるものとして活用し、我々の教育環境を改善していく機会としたい。そのため、全学的取り組みとして関わって欲しいとお願いした。

（研修後のアンケートによる自由記述）

- 山梨県立大の事例の詳細資料を見てみたいです。
- 認証評価の書類の書き方等、具体的な内容を期待していた。
- 今後のテーマとして、AI使えるようになりたいです。
- 議事録や報告書など、さっと作って、提出物早くできるようになりたいです。″
- 今後、できることを一つ一つしっかりやって行くことが大切だと思った
- 何となく分かってるようで、分かっていなかった認証評価が、少し身近になりました。
- 興味深い内容と研修だなと思いました。″
- 学習成果はPROGになるのでしょうか？
- そもそも認証評価とは、というところから聞けたのが良かった。
- 金城をより良いものにしていくためにPDCAを回していくことを継続していきます。
- 認証評価については、やる立場の人たちではないとどうしても「他人事」のようになってしまうのが現状のように感じています。そこは教職員の意識改革も必要ですし、認証評価のための書類作りにだけはならないようにしていく必要があると思っています。
- 分かりやすくまとめていただき、ありがとうございます。認証評価とはどのようなものかイメージができました。まずは、自分ができることとして「これができるようになった」と学生が実感できる授業を目指したいと思います。
- そもそも認証評価とは、の内容を丁寧に説明されていたのでお腹が満たされました。
- 今後の授業においても、学習成果やPDCAを意識した質が高まるようなきっかけとなりました。